

# チームけせんの和 だより

2015  
vol.5  
3月15日

発行 チームけせんの和

〒029-2205 岩手県陸前高田市高田町字鳴石42-5 TEL 0192-54-2111 FAX 0192-55-6118



## チームけせんの和に寄せて

東部指定居宅介護支援事業所 村上英永

DAIGOみたいに言う「TKWD」をご覧の皆様（Tチーム、Kけせんの、W和、Dだより）、いつもお世話になっております。東部指定居宅介護支援事業所（通称東部居宅）の村上英永です。英永と書いて“ひではる”と読みます。なかなか読めないと思いますし、電話などで自分の名前を説明するのも苦労するものでした。自分でも永と書いて“はる”と読む方は、自分以外では一人しか知りません。ですが、その方を知ったおかげで、永と言う字が“はる”と読めるのだと確信し、ホッとしたものでした。

私の誕生日は2月6日です。「まいうー」でおなじみの石ちゃんこと石塚英彦さん、歌手で俳優の福山雅治さんと同じ誕生日です。ですから、石塚さんの“ひで”と福山さんの“はる”が一緒になったと覚えていただければ光栄です。

さて、東部指定居宅介護支援事業所とは陸前高田市小友町字財当地区に位置し、社会福祉法人高寿会が運営する「東部デイサービスセンター」の中の一室に居ります。まあ、早い話が高寿園の職員です。高寿園の中には居宅介護支援事業所が2ヶ所ありまして、主に市内の中部地区（高田、気仙）と西部地区（矢作、横田、竹駒）を担当している高寿園指定居宅介護支援事業所（通称高寿園居宅・職員6名）と、主に米崎、小友、広田地区を担当する東部居宅があります。東部居宅は自分の他に2名の女性職員（介護支援専門員）が居り、合わせて3人の事業所で、高寿会の中で一番小規模な事業所です。

「TKW」の役員として参加させていただいて2年が過ぎ、一番のメリットとなったことは、会員の皆さんと顔の見える関係が築けた事ではないでしょうか。特に病院の先生方や歯科医師の先生、歯科衛生士の方々、薬剤師の皆さんと親しくなれたことは何よりです。県の研修会などに参加しても、ここまで連携できている地区は少ないと感じました。先生方をはじめとする会員の皆さんと交流会を行っていると話すと、うらやましがられたものでした。私も飲みニケーションは大好きなので、研修会はもちろんのこと、交流会へも率先して参加していきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

終わりに私事ではありますが、5月頃に「爺じ」になる予定となりました事をご報告させていただきます。つたない文章で申し訳ありませんでした。





## チームけせんの和に寄せて

松原訪問看護ステーション 戸羽 久恵

日差しが大分春めいてきました。もう少し暖かくなると、訪問先への移動は、お花見もしながらできるようになります\*\*\*

訪問看護ステーションに配属となり、10年目となります。ところが・・・こんな商売をしていながら実は人見知り、訪問看護のアピール

どころか、関係機関への報告やお願い事もかなり緊張してしまい「言葉が足りないなあ」と思うことしばしばです。

先日、職場の食事会の席で、苑の施設長より「廊下で会えば挨拶はするけれど、私はあなたがどの部署で何をしている人なのか分からない」と話されました。少し遠慮がちに、穏やかな笑顔で「ごめんね、言っちゃった」と気遣いのフォロー付きでした。それから慌てて自己紹介をし、数日後にステーションスタッフの紹介をしました。先生は、訪問看護について「どこまで訪問しているの?」「在宅でどんなことをしてくるの?」と質問をされ、そして「この間の会話があったから、こういう話ができる」とも話してくれました。「連携、連携」と言いながら、同じ施設内での関係作りさえ怠っていたこと、「こんなことでは、関係機関だけでなく利用者さんも相談なんてしてくれないだろう」と自分がとても恥ずかしくなりました。

「在宅療養を支える」ということは、ご本人と24時間介護をしているご家族を支えること。老老介護、在宅ターミナル、医療依存度の高い方、本当は私たちに相談したいことが山ほどあるはず。医療・介護関係なく、フォーマル・インフォーマルサービス関係なく、この方には何が必要かをみんなで考え、少しでも良い方向に持っていけるよう、そのためにすべての関係機関の連携、「顔の見える関係」が必要なのだと感じています。電話でも相手の顔が浮かぶ、言いにくいことや困っていることを相談できる、忙しそうなお時も声をかけて話ができる、状態だけでなく+αの報告ができる、そんな関係作りができるよう、人見知りはぼちぼち払拭しなければ・・・今後とも、どうぞよろしくお願いたします!!

### 三二知識

#### 介護支援専門員 (ケアマネジャー)

#### お仕事紹介

##### ● 名称の由来

主に福祉分野で、福祉や医療などのサービスと、それを必要とする人のニーズをつなぐ手法に用いられる「ケアマネジメント」という用語を、2000年4月から導入された介護保険制度の中で採用し、その従事者を介護支援専門員(ケアマネジャー)と呼ぶようになりました。

年1回の試験に合格し、計7日間の実務研修を受講して都道府県に登録してケアマネジャーになります。(最近の合格率は15~18%程度)

##### ● ケアマネジメントのプロセス

①面接→②アセスメントにより生活課題(ニーズ)を分析→③介護サービス計画を立案→④サービス担当者会議で情報を共有し計画を確定→⑤サービスの実施→⑥モニタリング(サービス進行中の評価)→⑦必要に応じて介護計画の変更→⑧最終的な評価・フィードバック

②から⑦までは、モニタリングによる再アセスメントを実施することで繰り返され、何らかの理由でサービスの中止に至った場合には終結となります。

##### ● ケアマネジャーが心がけていること

作成した介護計画(ケアプラン)により、利用者や介護者の自立支援とQOL(生活の質)の向上をめざし、そのためには、①着実に成果が出ているか? ②以前より身体機能が低下していないか? ③心が後ろ向きになっていないか? ④介護者はつらくないか? に注意してモニタリングをしていきます。

介護情報の収集・発信・まとめの中心は、ケアマネジャーが担っていますので、チームけせんの和の皆さん、よろしくお願いします。



H 27年1月29日

平成26年度 第5回研修会(69人参加) テーマ「よく笑う人はなぜ健康なのか」  
講師 国立病院機構函館病院 名誉院長 伊藤一輔先生



国立病院機構函館病院名誉院長の伊藤一輔先生が、医学的研究で実証された「笑いの健康効果」についてお話をして下さいました。笑うことは、免疫機能、リウマチ、うつ状態、認知症などに良い効果をもたらします。また、血糖値の上昇を抑えたり、カロリー消費や表情筋への効果も認められているそうです。函館病院循環器科で治療の一環として使用されている「笑方箋」「笑状日誌」も紹介され、健康のために1回1分間、1日5回笑う事(笑いたくない時は、鏡に向かっての作り笑いでも効果あり)のアドバイスがありました。

H 27年2月17日

平成26年度 第6回研修会(57人参加)  
テーマ「在宅を支える職種の理解を深める」



グループホーム氷上山の佐々木祐希さんから、「認知症実践塾」での事例や、入居者と職員を撮影した取り組みが映像を通して紹介されました。事例では、季節感を感じ、生活に楽しみをもてる支援、家族や地域とふれあい、なじみの関係を断ち切らない支援や、入居者と職員がお互いの信頼のもと、共に支えあう関係を築くことや、認知症でも持てる力を発揮し、あたりまえの生活が継続できる支援を大切にされたサービスを提供していることを報告していただきました。



松原クリニック訪問診療部の佐々木ゆう子さんから、事例を交えての活動報告がありました。寝たきり、閉じこもり、退院後の在宅診療ケア、ホスピスケアな



どの事例が報告され、個々のケースに合わせ、ケアマネジャー、訪問リハビリ、ヘルパー、管理栄養士とも連携し、患者や家族の意思を尊重したケアが行われています。また、家族介護者に配布している「これからの日々～家で看とること～」というパンフレットの紹介もありました。



社会福祉法人愛育会チャレンジドまちかど相談室“リンク”の近江雅喜さんより、平成11年から始めた障害児(者)の支援活動が紹介されました。平成24年からは、よろず相談に加えてケアマネジメントもスタート。対象者は知的障害が70%、他は身体障害者や精神障害者で、生活支援、通院やリハビリテーション、福祉サービスや制度の利用、就労、借金、男女関係など、あらゆる相談を受けています。また、重度の身体障害者への支援、介護保険への移行時や、家族介護者に障害がある場合には、介護職やリハ職との連携も行っているとの報告がありました。

## ★寸劇団「ばばば☆」初公演大好評★

1月28日(水)第1回寸劇団旗揚げミーティングで、石木会長から「寸劇を通じた健康課題の取り組みは地域住民に対して効果的であると各地から報告がある。当会としても今年度中に1回は、寸劇を通して健康に関する啓発活動を行うことを目標にしたい。」と、寸劇の目標と方向性が示されました。

劇団愛称は地域で最も親しまれ、どこでもだれでも常についつい使ってしまう「ばばばっ」にちなみ「劇団ばばば☆」に決定!

テーマは、岩手県の脳卒中死亡率全国ワースト1を受けて「塩を減らそう!」。団長は佐々木康裕さん(松原指定居宅介護支援事業所係長)に、配役も自薦他薦でスムーズに決まりました。美術部による大道具小道具の作成も順調に進み、みんなで稽古を積み本番に臨みました。

初演は西和野仮設住宅集会所で3月13日(金)に行われ、終演後は観客が飛び入りで参加し、寸劇団員にアドバイスをするなど大いに盛り上がりました。石木医師・菅原管理栄養士のミニ健康講座も開かれ、観客との積極的な質疑応答も行われました。



## チームけせんの和に寄せて

岩手県歯科衛生士会（きかわだ歯科クリニック） 佐々木 裕紀重

在宅療養を支える会、発足当初より歯科衛生士会の役員をさせて頂いております。石木先生からお声をかけて頂き、最初の顔合わせでふれあいセンターに集まったとき、私達に何がお手伝い出来るのだろうか…、と不安が先に立ったのを覚えています。

私自身のことを少しお話させていただきます。専門学校を卒業後、盛岡の歯科医院に勤務しました。Uターンして、きかわだ歯科クリニックに勤務して来月でちょうど10年になります。

私が学生のころは乳幼児や学童のむし歯がまだ多く、実習も学校の保健指導が主でした。高齢者向けの口腔ケアについての講義などはまだ少なかったように記憶しています。最近では学生たちも施設に出向き、直接入所者に口腔ケアを行っているとのこと。様々な経験が出来てうらやましい限りです。

岩手県歯科衛生士会各支部では、子供対象の活動より口腔ケアのボランティアなど高齢者対象の活動が以前より増えていると聞きます。摂食嚥下、口腔機能向上に関するものや実技を取り入れた研修会も行っており、参加すると様々な職種の方々と一緒にすることがあります。皆さん熱心に勉強されています。

私達は診察室にすることが多いです。健康で自分自身で歩いて来院する患者様たちを普段診ているので、実際に訪問診療に何うと戸惑うことがあります。足りない知識を研修会等で補っているつもりですが、実践するには経験を積み重ねて行けたらと考えています。

「チームけせんの和」の研修会に参加していると在宅療養の現場で活躍されている様々な職種の方、テレビでしかお会いできないような講師の方々のお話を直接聞くことが出来て、とても得た気分になります（しかも、交流会で一緒にお酒まで飲めるなんて…）。実際に行動に移せるかはともかく「知識の引き出し」をたくさん増やしたいと思っています。

「口から好きなものを食べたい」

この言葉を聞いたたびに、私自身歯科衛生士として宿題を突き付けられている気がしてなりません。その宿題の答えを探すために皆様からのお話をたくさん伺いたいと思います。これからもチームけせんの和の活動に微力ながらお手伝い出来ればと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

### 「チームけせんの和」寸劇団員募集中！

団員は現在20人で、俳優も道具小道具もぎりぎりの人数です。いろいろなテーマに備えるために団員は随時募集しておりますので、どしどし応募して下さい。楽しいですよ～！



連絡先：陸前高田市地域包括支援センター 蒲生 紋子 0192-54-2111（内線205）

### 編集後記

そこまで春が来ています。庭先の福寿草やすみれ、そして椿の花も咲きはじめました。春の色が気持ちを明るくし生気を分けてくれるような気がします。重いものを一枚ずつ剥がして気持ちよく春を迎えたいですね。医療介護連携に関する相談や提案がありましたら、事務局までお寄せください。

事務局 熊谷